

シリーズ
環境企業訪問 2

京都の企業のひとつとしての社会的責任を
環境保全に配慮した事業活動で体現



本社：京都府京都市南区吉祥院中島町29
TEL：(075) 682-5111
URL：<http://www.wacoal.co.jp/>
支社：東京、札幌、名古屋
京都、大阪、福岡 他
創業：昭和24年
資本金：132億6,000万円
従業員数：約4,500人



JR西大路駅の南西に立つ本社ビル。手前左側には、本社屋の建設に際して京都市に寄贈した公園の一角と、今夏に新たに寄贈したハイブリッド照明灯が見える

日本のトップ下着メーカーとして知られる株式会社ワコール。同社は、2004年春からCSR（企業の社会的責任）推進室を立ち上げ、環境活動にも積極的に取り組んでいます。「CSR」視点を更に加え、環境保全に配慮した事業活動を展開していくスタートラインに立ったワコールの本社で、お話をうかがいました。

“ワコールらしい” CSRを問い合わせる

ワコールがCSR推進室を立ち上げたのが今春。そもそもCSRとは、Corporate Social Responsibility の略で、一般的には「企業の社会的責任」と訳されています。この概念は、1920年代アメリカで、キリスト教会の資産運用に当たって、アルコールやギャンブルに関する企業への投資を排除するという宗教的な目的から生まれました。欧州においてもこの考えが発達し、英仏両国にはCSR担当大臣が据えられ、法制化の動きも出てくるなど、注目を集めています。

「企業は利益を上げると同時に、企業倫理や法令を守り、社会貢献や環境対策などの面でも一定の責任を果たしていく必要がある」とするCSRの視点に立ち、ワコールという一企業を捉えなおそうとする時、まず今までの活動を整理していく必要があったと、桂一朗・CSR推進室長は設立当初を振り返ります。

「CSRを推進していくに当たり、「ワコールは本当に今まで何もしてこなかつただろうか?」という疑問が生まれました。そこで、過去の活動を棚卸しましたところ、「これもCSRの一環と言えるのではないか」と思える事例がたくさん出てきました」



取材当日、CSR推進室の方たちから説明を受ける

30年前から、病気などで乳房を手術された方に美しいボディラインを取り戻してもらえるようにと「リマンマ」という商品を手掛けているのも、その一例。環境問題での取り組みで言えば、新潟ワコール縫製（株）では5年も前から、パジャマの型を抜いた後の残布を近くの医療・福祉施設に無償で提供し、介護支援に役立てもらっています。これまで取り立てて意識しなかった地道な活動を再発見したことは、CSR推進の大好きな励みになったそうです。

環境問題を身近に意識する

一見、環境問題とは深く関わりがない業種のように思える下着メーカー。しかし、ワコールでは、会社で使用する電気の発電・供給、染色や紡織など材料である“布地”的工程までさかのぼって、「ワコールに関わるすべてのもの」という捉え方で環境問題への意識を高めています。その一例が、昼休憩中の消灯です。

この夏、ワコールでは、本社近くの公園に太陽光と風力により稼動するハイブリッド照明灯を寄贈。周辺にある街灯は22時になると一斉に消えてしまうので、「夜間の安全確保のため」というのが主たる目的ですが、もうひとつ、社内における省エネ意識向上にも役立っています。「本社ビルにおける昼休憩の1時間の消灯により節約する電気量」を社員に説明するのに、「ハイブリッド照明灯を（1日10時間点灯として）およそ1年半稼動できる」と表現することで、より具体的に理解してもらえるようになったと言います。

この他にも、京都の各事業所および九州ワコール製造（株）で、衣料品再利用の取り組みを実施。不要となった衣料品を持ち寄り、NPO法人日本救援衣料センターを通じて中東の国々などに発送しています。また、不要文房具の回収と再利用にも積極的に取り組んでいます。

「身近なことの積み重ねが、環境問題には欠かせません。まずは意識して、それを行動に移していくこと。これが着実に社員に浸透してきているのではないでしょうか」。実践例のいくつかをご紹介いただいた山本忠史・CSR推進室専任課長の言葉が、とても印象的でした。



(左)本社横に広がる公園で行なわれた、地域小学生との緑化活動の様子

(右)今年の夏、公園に設置されたハイブリッド照明灯

【環境データ】

ワコールから広がる環境意識の輪

ワコールでは、2000年に以下の環境方針を掲げました。

- ①環境マネジメントシステムを構築し、維持します。
- ②環境保全のための目的・目標を定め、定期的に見直しを行います。
- ③環境保全活動の継続的な改善と汚染の防止に努めます。
- ④関連する環境法令及び自主管理基準を守ります。
- ⑤人と環境にやさしい製品開発、および技術開発に努めます。
- ⑥廃棄物の分別管理、削減、および再資源化に努めます。
- ⑦製品の材料、電力、紙を中心に省資源・省エネルギーに努めます。
- ⑧環境保全のための教育・訓練および啓発活動を進めます。
- ⑨広く社会と連携し、地域社会の環境保全に努めます。
- ⑩環境方針は外部に公開します。

また、本年度から2007年3月まで第二次中期環境計画期間と位置づけ、ワコールグループ全体への、環境マネジメントシステムの拡大や、省エネ・省資源、廃棄物の3R（リデュース、リユース、リサイクル）を推進し、CO₂排出量を削減するなどの具体的な取り組みを行っています。

「ISO14001およびKES認証取得範囲を、国内関連企業にまで広げる計画が進行中です。この姿勢に賛同し、認証取得してくださる企業が年々増加しており、感謝しています」

日本を代表する企業であるだけに、ワコールが展開する取り組みの影響力には大きなものがあります。環境問題においても、京都を、そして日本を牽引していってくれることでしょう。